

第2学期終業式 校長講話（12月22日）

3つある学期の中で一番長い2学期も今日で終わりです。振り返ってみてどうでしたか。その日その日は長いと感じたこともあったかもしれませんが、こうやって振り返ると、あつという間の2学期だったのではないのでしょうか。

その中で一番心に残っているのは、やはり学校祭でしょうか。2学期が始まってから、いや、夏休み、その前の1学期から準備にとりかかり、最高の学校祭を創り上げてくれました。多くの来賓の方々からも、みなさんのおうちの方々からもおほめの言葉をいただきました。それを創り上げたのが、みなさんです。そして、そのリーダーとなって引っぱってくれたのが3年生です。素晴らしいリーダーでした。その姿を見た2年生は何を感じたのでしょうか。1年生は何に気づいたのでしょうか。そのことが、来年以降の学校祭の力となって受け継がれていきます。どうか、しっかりと心に刻み忘れないでください。

それからしばらくたった11月に、2年生は広島へ行きました。「戦争」「平和」よく使う言葉ですが、それが実際にどういうものなのか、広島へ出かけて多くのことを感じたと思います。そのまとめもできあがってきたと聞いています。廊下には絵も貼ってあります。そこで感じたことをどうか忘れないでください。

同じ時期に1年生は、福祉実践教室を行いました。目にみえる障害、見えない障害などさまざまなものがあることを知り、人権週間で話のあった人種差別や障害者差別、高齢者差別など、みなさんの身近にあるものに気づくことができました。これからの生活の中で、自分はどう行動すればよいのか考える機会となりました。

こうして、2学期は多くの行事や活動の中で、みなさんは気づき、学び、成長しました。それを目の当たりにすることができ、大変うれしく思います。

さて、もう一つ、1年B組担任、そして女子バスケットボール部顧問のS先生の話をしてしたいと思います。

学年や関係するクラスにはおうちの人用のプリントを配りましたが、今、S先生はお休みをしています。その理由は、赤ちゃんができたからです。S先生からそのことを聞いたときは、「おめでとう！無理をしないで大事にしてくださいね」という話をしました。S先生もとても幸せそうな表情でした。

しかし、そこからが大変でした。クラスの子や体育の授業を受けている子は知っていると思いますが、とても体調の悪い日が多く、時には立っていただけなくてしゃがみ込んで動けないこともありました。「つわり」と呼ばれる症状です。

このつわりは、妊娠した女性の 8 割以上がなるものですが、その重い軽いは人によって違います。聞けば、S 先生のお母さんもお姉さんも、とてもつわりがひどかったそうです。

そんな状態で、授業や部活動などが十分に行えないことを、S 先生は大変申し訳なく思っていました。だから、みんなと一緒に動くことはできないにしても、その場所には行かなくては、ということで教室や体育館へ行くのですが、時には給食のにおいをおいがかぐだけでも気持ちが悪くなりトイレへ駆け込むほどでした。

このままではみなさんに迷惑をかけるし、なにより、S 先生の体はもちろん、おなかの中の赤ちゃんのことが心配ですので、お休みをするという選択をしました。1 年 B 組の子やバスケット部の子には申し訳なく思います。

ひとつの命を誕生させることは、これほどまでに大変なことなんです。そして、それは S 先生だけの話ではなく、ここにいるあなたも、あなたも、あなたもそうやってこの世に生まれたということです。S 先生は出産予定が 6 月で、今、4 か月です。おなかの中の赤ちゃんは 10 センチほどだそうです。10 センチの赤ちゃんが、おなかの中からそうやって「生きているよ」というサインを送り続けているんです。

中学生になり、背もおうちの人を追い越すほどになった今、その命は今も「生きている」というサインを発していますか。「私なんか」「俺なんていなくたって」って、自らの体を傷つけたり絶とうとしたりしていませんか。「うざい」「死ぬ」と、周りにいる人の命を軽く扱っていませんか。

明日から冬休み。決して命を落とすことなく、失うことなく元気な姿で 3 学期に会えることを楽しみにしています。よい冬休み、よい年を迎えてください。